

令和5年7月4日
 第11号

噂どおりの自然な日本語です。3つのうち、1と2は「聞く力」そのものです。「聞く力」と言えば岸田首相です。巷では批判が多いようですが、なんせ総理大臣です。「聞く力」が低いとは到底思えません。批判する人は、「聞く」の中に(言われたとおりにする)という意味を加えているのかなと思います。なお、私は政治的中立です。この紙面で言う「聞く力」とは、純粹に話を聞いて理解する力のことです。言わずもがなですが、「聞く力」はとも大切なことです。では、小学校ではどんな「聞く力」を育てようとしているのか、私たちの授業づくりの拠り所となる学習指導要領解説国語編を確かめてみます。



小学生にとっての読み聞かせには、以下のようなメリットがあります。

1. 言語能力の発展: 読み聞かせによって、子供たちは新しい単語や表現を学び、豊かな言語能力を発展させることができます。また、ストーリーの流れや文脈を理解する力も養われます。
2. 想像力と創造性の発揮: 良い物語は子供たちの想像力を刺激し、創造的な思考を促します。読み聞かせによって、子供たちはさまざまなキャラクターや状況をイメージし、自分なりの物語を作り出すことができます。
3. 読書への興味と愛着の醸成: 読み聞かせは子供たちに読書の楽しさを伝える重要な手段です。良い本を選んで読み聞かせることで、子供たちは読書への興味や愛着を持つことができます。これは将来の読書習慣の形成につながる可能性があります。

チャットGPTはすごいですが、「西南小の強み」のような個別的な事柄は回答できません。こういう個別的な事柄を整然と回答されるようになると、私の存在意義がなくなります。

先週は、読み聞かせボランティアの皆さまに来ていただき、全学級で読み聞かせをしていただきました。大変お世話になりました。タイトル部分の写真のように、教卓のそばに集まって、床に座って聞く雰囲気が好きです。後ろからカメラを向けても、こちらを一顧だにせず、語りの中に没入している子どもの姿が素敵です。さて、読み聞かせの効果について、話題のチャットGPTに聞いてみたら、わずか五秒で左のような回答がでてきました。しかも、正しい内容です。

低 話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさな
 いように集中して聞き、話の内容を捉えて感想をもつこと
 中 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手
 が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分
 の考えをもつこと。

高 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内
 容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをま
 とめること。

なかなか高度に感じます。私の「中年」の「聞く力」は、
 中学年の「聞く力」にも及ばないのではと不安になります。
 各学年とも自分の感想や考えを持つこと(傍線部)までを
 含み、それが聞いて理解する「理解」の部分になります。
 上記メリットの3つ目ですが、人が選んだ本を読んだり聞い
 たりすることは、確実に読書の世界を広げます。今回読んでも
 らった本を今度は自分で手に取って読んだときは、さらに理解
 やイメージが膨らんで読書の楽しさが膨らむはずですよ。

また、読み聞かせの途中や、読み聞かせの後に感想交流や質
 問の出し合いなどをすると、グッと理解が深まります。子ども
 たち個々の語い力(知っている言葉の数)には差があるので、
 理解の度合いも違いますが、聞いたお話について語り合うこと
 はとても効果があります。

本校の取組の一つに、「しあわせハッピーDAY」がありま
 す。毎月一五日を「ことば教育の日」とし、ノーマディアを心
 がけて家の人とたくさん話したり、遊んだりしてハッピーにな
 ろうという日です。五月時点の各家庭での取組状況は、五三・
 八%です。学年別に見ると、低学年より中・高学年の方が取組
 率が高いようです。ただ、あくまで一つの傾向としてご理解く
 ださい。個人的にはもう少し増えるといいなと思いますが、自
 分を振り返ればノーマディアを心がけるべきは大人の方だとも
 感じています。また、各学年では音読の宿題が出されることも
 多いと思います。お子さんの音読を聞いた後に、読み方の評価
 ではなくお話の中身について一つ二つ質問するのいいと思っ
 ます。国語の授業の理解につながります。

話はあちこち飛びましたが、読み聞かせをはじめ大人の関わり
 によって、子どもたちは「聞く力」を初めとする豊かな言語
 感覚を身につけることができるということです。それがわかっ
 ても心がけなかった私は、岸田首相なみに娘から批判され
 ています。なお、妻は家庭的中立でもありません。